

夢のつばさプロジェクト

2019 冬キャンプ 学生報告書

【日程】2019 年 12 月 24 日（火）～27 日（金）

【開催地】（株）ブリヂストン保養所 奥多摩園（青梅市）

【参加者】子ども：34 名（小学生：14 名、中学生：9 名、高校生：8 名、専門学校生：3 名）

学生スタッフ/OB・OG（社会人を含む）：46 名（途中入れ替わりも含む）

社会人スタッフ・協力者：14 名（同上）

◆2019 冬キャンプについて

今冬も多くの方々のご支援・ご協力を賜り、4 日間のキャンプを開催することができました。様々な形でお力添えをいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

今回のキャンプは、子どもたち一人一人の顔を思い浮かべた時に改めて湧いてきた「それぞれが『来てよかった』と思える場をつくりたい」という想いと、「この場が子どもたちの活力・糧となれば」という願いを胸に、子どもたちの心が動き思い出に残るキャンプを目指して準備を進めて参りました。当日はこれまでで一番参加人数が多く、非常に賑やかで温かな 4 日間となりました。以下にその詳細をご報告いたします。

◆スケジュール・概要

	1 日目 (12 月 24 日)	2 日目 (12 月 25 日)	3 日目 (12 月 26 日)	4 日目 (12 月 27 日)
午前	送迎	卓球大会	自由時間	閉会式
午後	開会式 アイスブレイク	夏キャンプ企画 (中高生希望者)	話す企画 (中高生) 遊園地企画 (小学生)	送迎
夜	大人狼 (希望者)	音楽会・クリスマス会	20 歳プロジェクト	

<1 日目>

◆開会式・アイスブレイク



4日間をともに過ごす子どもたちと学生、大人スタッフの全員が顔を合わせて行う開会式は、子どもたちが無事に東北から来てくれたこと、キャンプを楽しみに期待をふくらませたキラキラした笑顔を見せてくれていることに感謝の気持ちが溢れます。今回初めてキャンプに参加する子や久しぶりに来てくれたも多くいましたが、奥多摩園までの移動の間ですでに打ち解けている様子が見られ、4日間持つか？と心配になってしまうくらい元気いっぱいにはし

やいでいました。

アイスブレイクとして行った「エビバディアップ」は、みんなで輪になって手をつなぎ座った状態から、息を合わせて立ち上がるゲームです。4人、10人、20人と人数が増えていき、身長差もある中で苦戦したグループもありましたが、想像以上にスムーズに立ち上がることができていて、年齢がちがうさまざまなメンバーがお互いに協力し合える夢のつばさらしさが垣間見えたアイスブレイクとなりました。

◆大人狼

夜の自由時間は「大人狼」の企画を行い、希望して集まったメンバーでカードゲームで遊びました。人狼は、夢のつばさのキャンプで毎回行われているくらいみんなが大好きなゲームです。今回の企画では、学生が全部準備・運営をするのではなく、子どもたちにも企画づくりにかかわってもらうことで、みんなが楽しめるようにするにはどうしたらいいかな？と考える経験や、みんなのために何かができる！という達成感を得てもらえることを目指しました。



企画の準備にかかわってくれた子どもたちは、ゲームをより楽しくするためのアイデアをたくさん出し合い、自分たちで備品をつくるなど積極的に準備を頑張っていました。ゲームの進行役を自ら名乗り出て務めてくれた子は、進行役として誰よりも早く部屋について準備ができるように一生懸命で、本番の進行でもみんなをまとめようと工夫しながら取り組んでいました。参加した子どもたちが元気いっぱいだったこともあり、みんなをまとめきれなかった反省も口にしていましたが、「また進行をやりたい」と最終的に言っていました。学生が子どもたちのために何かするという一方的な形だけでなく、子どもたちも夢のつばさのみんなのために何か挑戦できる機会をこれからより増やしていけたらと思われました。

<2日目>

◆卓球大会



2 日目の初めに行ったのが、チーム対抗の卓球大会です。いつも自由時間に卓球場にいる卓球が大好きな子たちには夢のつばさで本気や実力を出せた、活躍できたという自信を得てほしい、そして卓球があまり得意ではない子にとっても楽しめる企画にしたいという想いで企画しました。

上級リーグ、中級リーグ、紙あて（紙の的にボールを当てて倒す）、球残し（球を回転をかけて投げて卓球台の上に残す）の4つから、チームのメンバーで分担してそれぞれのリーグに出場し、総合ポイント

で優勝を競います。上級リーグと中級リーグは、普段のキャンプから卓球に熱中している子たちが集まり、かなりレベルが高い接戦を繰り広げていて、応援もとても盛り上がりました。卓球部に入っている中学生と幼い頃から卓球を習っている小学生の熱い戦いも見られました。卓球があまり得意ではなく、始める前は消極的だった子も紙あてや球残しで活躍していて、自分のチームが勝ったときはとてもうれしそうな様子でした。年齢や実力のちがうメンバー同士がチームを組み、いっしょに優勝を目指したこの企画は、同じ目的のためにそれぞれが自分のできる最大限を出し、お互いのミスも励まし合いながら応援し合うことを通して、今回初めてキャンプに参加した子どもたちも含め絆を深めることができたと思います。みんなで一つの目的のために力を合わせるという機会を、これからのキャンプの中でもつくっていかれたらと思います。

◆夏キャンプ企画

午後の自由時間中に、中高生の有志で「来年の夏キャンプの企画を考える」という企画を行いました。自由参加の企画であったものの、殆どの中高生が参加して、「自分たちや、夢のつばさのほかの子どもたちのためになる企画ってどんな企画だろう？」という問いに対して、皆が一生懸命自分の意見を話してくれました。この企画で大事にしたことは、子どもたちの声をきくこと、いっしょに考えることです。普段私たちが企画をつくる時に、子どもたちのことを想像して、こんな企画がいいのではないかな、こんな経験をさせてあげられたら子どもたちのためになるのではないかな、と考えて準備をしますが、実際に子どもたちがどんなことを夢のつばさのキャンプに求めているのかをきく機会や、それをいっしょに考える機会は今まであまりありませんでした。これからのキャンプをもっと子どもたちといっしょにつくっていけるようになる第一歩として、今回この企画を行いました。

中高生の子たちは、わたしたちが想像している以上に熱い想いをぶつけてくれました。年下の小学生に対してはいろいろな経験ができたらいと思う、という意見を出している子がいたり、「夢のつばさのキャンプにスタッフ側としてかかわってみたい？」という問いに対しては、多くの子がやってみたいという気持ちを伝えてくれました。キャンプに長く参加し続けてくれている中高生にとって、夢のつばさがとても大切な場所であることや、そこで価値ある経験をしたいと思っていることがわかり、これからよりその子たちの声を取り入れながらいっしょに活動をつくっていくことがとても楽しみだなと感じさせてもらいました。



◆音楽会・クリスマス会

夕食後には音楽会とクリスマス会を行いました。社会人スタッフの一人の白井優次様のご紹介で、打楽器奏者の大江雅子様と岩崎りえ様、坂口璃々己様がお越しく下さいました。クリスマスの定番曲から子どもたちがよく知っている今流行りの曲まで、ジャンルを問わず演奏して下さいました。『パプリカ (Foorin)』の演奏の時には、自らみんなの前で踊りを披露してくれた子どももいました。他の子どもたちも口ずさんだり、手の振りだけ踊ってみたいと楽しげな様子が見られました。

さらに今回は子どもによる演奏もありました。『栄光の架橋 (ゆず)』をギター (コード) で弾き語りをしてくれました。岩崎様が急遽コラボレーションして下さり、より素晴らしい演奏となりました。子どもが自ら演奏したいと申し出てくれたことに胸がいっぱいになると同時に、このように子どもが自ら何かを発信したい！という気持ちを受け止める機会をたくさん設けていきたいと思います。

有志の子どもたちによる司会は今回は希望者が多く3人でした。たくさんの子どもたちが子どもスタッフとして何かしたいと立候補してくれたことに感動しました。一人ひとり感想を言う場面や子ども自ら「ここは立って言おう」「ここはこうした方が良いかな」と検討したり、提案したりする場面も見られ、成長を感じました。

最後に恒例の「つばさをください」の合唱をしました。今回は打楽器奏者の皆様が伴奏をしてくださり、いつもとは違う雰囲気 of the 合唱となりました。みんなで輪になって肩を組みながら歌う様子は、毎年恒

例ではありますが、夢のつばさプロジェクトの温かな雰囲気をより一層感じられる大切な場になっていると思います。今年も素晴らしい音楽会が開催できたことを携わってくださったすべての皆様に深く御礼申し上げます。

音楽会の後はクリスマス会を行いました。今年もサンタクロースさんが来て下さり、子どもたちにプレゼントを下さいました。子どもたちは少し照れながらプレゼントを受け取り「早く開けたい！」とプレゼン



トを開けることを楽しみにしている様子でした。解散した後に子どもたちから「こんなの入ってた!」という報告が聞けて良かったです。今年も素敵なプレゼントをありがとうございました。

<3日目>

◆話す企画（中高生）

3日目の午後に中高生全員で話す企画を行いました。テーマは恋愛・結婚、友達、勉強、仕事の4つで、まず3〜4人のグループに分かれ自分たちでそれぞれについてどう思っているのか、意見を言い合いました。「結婚はしなくてもいい」、「今やっている勉強は正直将来使わないと思う。」、「友達は心が開ける人が2・3人いたらそれで充分。」など、様々な意見を子ども達から聞くことができました。子ども達それぞれが自分の意見をしっかり持っていることを感じる事ができました。

グループでのトークの後は、社会人スタッフ2人が4つのテーマについてそれぞれの経験や意見語るというトークセッションを行いました。子ども達みんなが話を真剣に聞いている様子が見られ、子ども達からも質問が出てきました。トークセッションの後は、今回の話を聞いて感じたこと、考え方が変化したことを紙に書いていきました。子ども達からは、「話を聞いてよかった。」という声多く聞くことができました。これから10代後半から20代を生きていく子ども達にとって、少し先で人生を歩んできた社会人スタッフの経験や考え方が、少しでもこれからの活力になったのではと感じます。



◆遊園地企画（小学生）

中高生の企画の裏で、小学生はトロッコのアトラクションを作る「遊園地企画」を行いました。この企画では子どもたちがとにかく自由に発想し、それを形にすることで達成感やできた喜びを感じ、心から楽しいと思えることを目指した企画です。トロッコに乗って部屋の中をグルグル回る、そんな体験もふだんはなかなかできないことなので、思い出に残る時間になればという想いも込めました。

初めは机を並べて作られた道だけが用意されていて、そこから自由にトンネルなどの障害物をつくったり装飾などを行います。私たちが想定していた以上に子どもたちの発想力はものすごく豊かで、学生



には思いつかないような仕掛けがいっぱいのすてきなアトラクションを作り上げていました。とくに今回初めてキャンプに参加した子どもが、斬新なアイデアと表現力でグループを引っ張って活躍していたり、トロッコの装飾を一生懸命やっていた子どももいて、それぞれの得意が光っていました。トロッコに乗る順番を決める際には「小さい子から乗ろう!」と高学年の子どもたちが低学年の子どもたちを思いやる姿が見られたり、自分が乗っていない時間は、

乗っている子に対して風船を降らせたり紙吹雪をかけるなどして、みんなが楽しめる場をみんなでつくりあげることが小学生なりにもできていたことに感動しました。小学生の子たちに対してはまだまだ子どもと思ってしまうがちかもしれないですが、チャレンジするきっかけをつくってあげればいろいろなことができるのだなということに気づかされました。子どもたちのできることがもっと広がるように、これからのキャンプでもたくさんのことに挑戦できる機会をつくっていききたいと思います。

◆20 歳プロジェクト

3 日目の夜に 20 歳プロジェクトという、子ども達の中で 20 歳になった子をお祝いするという企画を行いました。今年は、今は学生として参加してくれている 2 人を夢のつばさプロジェクトのメンバー全員でお祝いしました。夕食前に 2 人に内緒で、セミナールームをみんなで協力しながら装飾しました。アルバムにメッセージを書いたり、ペーパーフラワーを作ったり、ホワイトボードにお祝いの絵を書いたり子ども達も学生もそれぞれが 2 人の喜んでくれる顔を想像しながら装飾を行いました。



夕食後の本番では拍手で 2 人を迎え入れ、会が始まりました。学生スタッフからの 2 人へのメッセージや、2 人から夢のつばさプロジェクトのメンバーに向けた話はどれも夢のつばさプロジェクトの温かさ、2 人と学生の絆が感じられました。会の最後には 2 人と夢のつばさプロジェクトのメンバー全員とのハイタッチを行い、その場にいた全員で 2 人のことを応援する雰囲気が家族のようで温かったです。2 人が夢のつばさプロジェクトの全員から愛されていることが伝わり、他の子ども達も 2 人の大きな背中を見て自分たちが 20 歳になったときを想像する声を聞くことができました。

<4 日目>



◆閉会式

4 日目の午前中に閉会式を行いました。まず部屋のメンバーで集まって、ありがとうをメッセージに書いて伝え合うありがとうポストイットを行いました。それぞれが 4 日間の感謝を伝え合うことができました。3 日目に見ることができなかった 20 歳プロジェクトの 2 人のスライドショーを閉会式で見ましたが、2 人の昔の写真や社会人 OBOG からのメッセージを見て、改めて 2 人の成長と存在の大きさを感じました。4 日間を振り返ったスライドショーでは、夢のつばさプロジェクト全員の笑顔が溢れた写真をたくさん見ることができ、楽しかったキャンプをみんなで振り返ることができました。

◆2019 冬キャンプを終えて

今回のキャンプは、今まで 9 年続けてきた夢のつばさのキャンプの”これから”を考えさせられる 4 日間であったように思います。「子どもたちのために何ができるだろうか」と考えることが私たちのすべての活動のスタート地点にあり、これからもその姿勢は変わりませんが、子どもたちも自分たちなりに、「夢のつばさのキャンプでこんな経験をしたい」「自分の将来につながる何かを得たい」という想いを抱いて、夢のつばさを自分の人生にとって大切な場所であると考えてくれていることが、今回のキャンプのさまざまな場面で感じられました。そんな子どもたちの想いを受けた私たちには、今後もっと子どもたちの今とこれからにつながる活動を本気で考えていく責任があると思うし、それを実現させるためには今回のキャンプのように子どもたちの声を積極的に取り入れ、いっしょにつくっていくことが必要であると思います。自分たちが夢のつばさの仲間たちとどんな経験をしたいか、ということはいっしょに考えいっしょに形にしていくことを通して、今まで以上に強い絆も生まれるはずです。そしてその経験は夢のつばさでしかできないことです。次の 1 年は夢のつばさの活動が 10 年目を迎える節目の時期でもありますので、これまでかかわってきてくれた子どもたちといっしょに、一つの目的に向かっていっしょに取り組むことができたかと強く思います。

今回も子どもたちが大きな怪我などなく無事に笑顔で終わることができたのは、4 日間子どもたちと学生のことを見守ってくださり、至らない点のご指導くださった社会人スタッフの皆様や、いつも快く迎えてくださる奥多摩園の方々のおかげです。この場を借りて感謝の気持ちをお伝え申し上げます。

最後になりますが、わたしたちがこの活動を続けることができるのは、いつもご協力くださる皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

学生代表 お茶の水女子大学 3 年 小野崎 すみれ